

# 令和5年度大館市立西館小学校 学校評価書（年度）

## 評価

児童の 状況	自己評価	きわめて良好	自己	5	実現状況は極めてよく意識も高い/数値目標に対し100%以上達成
	Aと学校	良好	評価	4	実現状況は良好で意欲もある/数値目標に対し80～99%達成
	関係者評	おおむね良好	Bの	3	実現状況はおおむね良好/数値目標に対し60～79%達成
	価の評価	やや不十分	評価	2	実現状況はやや不十分で取組が不安定/数値目標に対し40～59%達成
	区分	努力を要する	基準	1	実現状況は不十分で努力を要する/数値目標に対し39%以下の達成

学校運 営の 状況	自己評価	きわめて良好	自己	5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く成果も顕著
	Aと学校	良好	評価	4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
	関係者評	おおむね良好	Bの	3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
	価の評価	やや不十分	評価	2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
	区分	努力を要する	基準	1	目指す方向が不明確で取組体制や取り組み方に解決すべき課題が多い



西館ふるさとの日 クリーンアップ



西館ミーティング（3年生担当）



防火扉を閉めて避難訓練（火災）



給食センター久慈先生による食育の授業

# 項目別評価

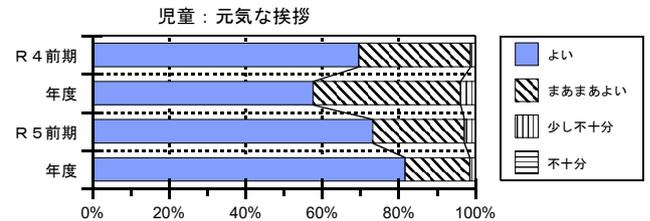
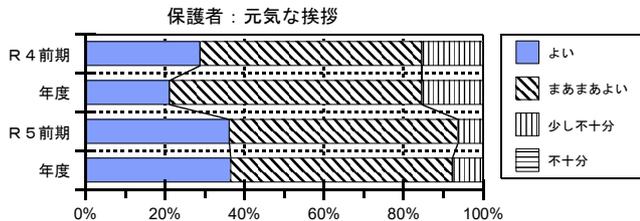
## I 社会性の育成

児童の状況	自己評価A	運営協議会評価	運営協議会コメント	
基本的な生活習慣を身に付け、規律ある態度で協力し合い、充実した学校生活を送ろうとしている。	前期	良好	良好	元気のよい挨拶ができています。授業に向かう姿勢、返事もよくできています。席を離れる際に椅子を入れるなど、普段の指導が行き届いている様子がかがえた。
	年度	良好	良好	各学年に応じた基本的な生活習慣が身に付いている。地域での挨拶は、家庭での挨拶が当たり前のようになるとよくなると思う。家庭、地域の協力を得ながら、校内でのよい挨拶が外にも広がるような取組をしてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期→年度】計画委員会による毎朝の挨拶散歩、ハローウィーク等の活動の継続により、校内での挨拶はよくなっている。廊下歩行やワークスペースでの過ごし方に課題があるが、見付けたらその場ですぐ指導することを全職員で実践している。また、だめなことを注意するだけでなく、よい点についてもすぐに褒めることを心掛けている。現在のところ、不登校傾向の児童はいないが、気になる児童はある。全職員で情報を共有し見守りながら未然防止に努めている。			
	【年度→次年度】毎朝の挨拶散歩の他、各学期始めのハローウィークの継続により、明るい挨拶のできる児童が増えた。安全な生活についての約束があまり守られていないという反省から、委員会による強調週間を行った。できている児童に目を向けることにより、全校の意識向上にもつながった。不登校傾向の児童については、情報を共有することはもちろん、全職員によるチーム対応を行っている。			

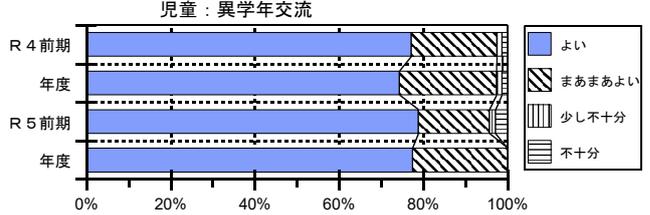
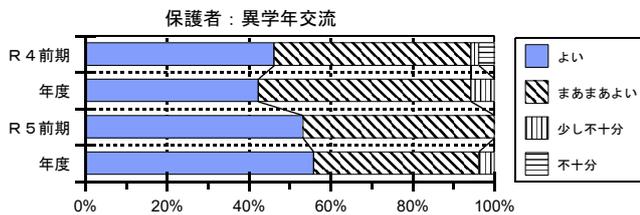
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 基本的な生活習慣 (主体的実践力)	①元気な挨拶の励行	・学年あいさつ運動実施 ・ハローウィーク、あいさつ散歩	3	3
	②けじめある生活の習慣化			
2 集団生活・集団行動 (社会性)	③異学年交流の充実	・委員会、クラブ・縦割り班 ・係・当番活動、班での取組と振り返り	4	4
	④学級活動の充実			
3 組織的な生徒指導 (道徳性)	⑤共通理解に基づいた生徒指導	・情報交換、子どもを語る会 ・いじめ調査後の教育相談 ・さわやか委員会による初期対応	4	4
	⑥いじめ・不登校の防止と早期対応			

【1①に関するデータ】 教員評価 前期 3. 6 → 年度 3. 3

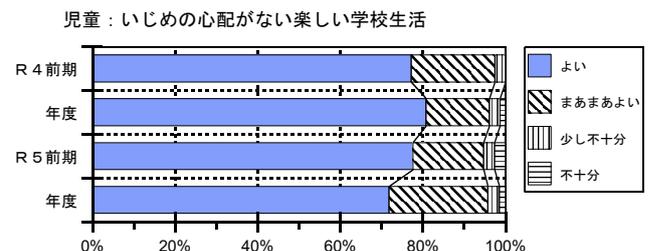
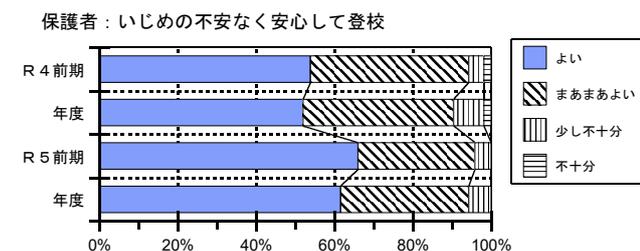
【1②に関するデータ】 教員評価 前期 2. 9 → 年度 2. 6



【2③に関するデータ】 教員評価 前期 3. 5 → 年度 3. 7



【3⑥に関するデータ】 教員評価 前期 3. 7 → 年度 3. 5



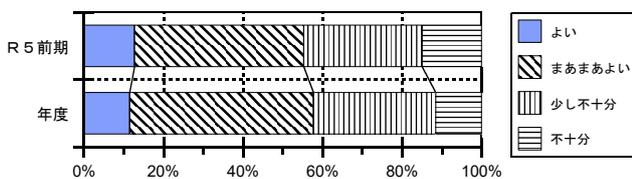
## II 健康と体力

児童の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会コメント
食や運動を通して健康や体力に関心をもち、望ましい態度や生活習慣を身に付けようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	メディアコントロールについては、望ましい生活習慣を身に付けられるよう、引き続き保護者との連携を図りながら取り組んでほしい。マラソンは苦手な児童もいると思うが、児童が互いに励まし合いながら取り組んでいる姿に好感がもてる。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	メディア使用のルールについて、児童と保護者の意識の違いが気になるが、子どもの意識の向上を認めたい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期→年度】「メディアコントロール」については、保護者と共に取り組む体制強化に向けて、「おおだてONEONEカード」の結果から本校の実態を考察し、保健だよりで呼び掛けたり、取組の紹介をしたりする取組を継続している。メディアコントロールカードについては、家庭との連携強化を図るため、学校での記入から家庭で記入に変更して実施した。			
	【年度→次年度】メディアコントロール週間では、児童の意識向上のための事前指導を行うことや、保護者の協力により効果があった。ただ、強調週間以外の日常の意識向上につなげることが課題である。比内給食センター栄養士による食育指導を全学年で行った。栄養バランスに気を付けて食べることの大切さを学び、給食に対する意識にも変化が見られた。			

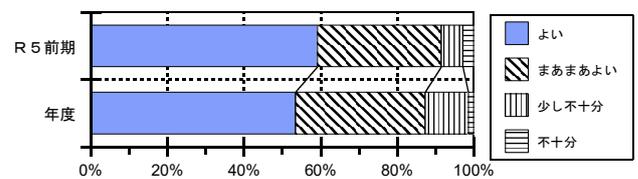
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
4 保健・食育指導の状況 (健康)	⑦健康な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアコントロール週間(年3回)</li> <li>保健だよりの発行</li> <li>栄養教諭と連携した食育の推進</li> </ul>	3	4
	⑧食育の推進			
5 体力づくり (主体的実践力)	⑨体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力パワーアップ</li> <li>マラソンタイム・マラソン記録会</li> </ul>	3	3

【4⑦に関するデータ】 教員評価 前期 3.5 → 年度 3.5  
 【4⑧に関するデータ】 教員評価 前期 2.8 → 年度 3.8

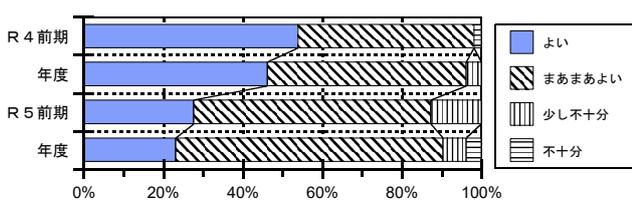
保護者：メディア使用のルールを守る



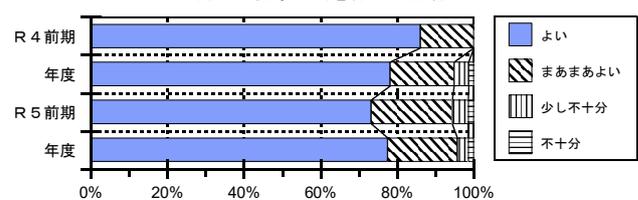
児童：メディア使用のルールを守る



保護者：生活習慣の確立への取組

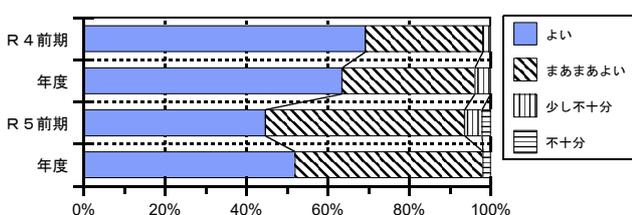


児童：健康に気を付けて生活

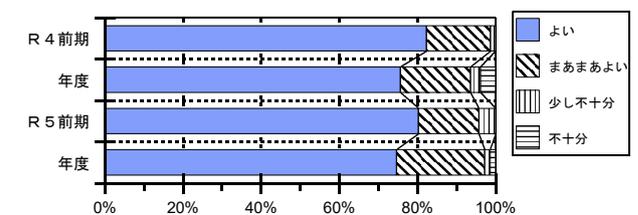


【5に関するデータ】 教員評価 前期 3.1 → 年度 3.4

保護者：体力づくり



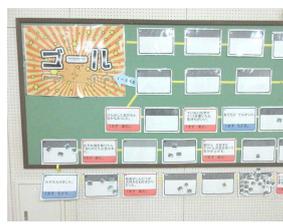
児童：体力づくり



メディアコントロール週間



1年 食育授業



マラソンすごろく



マラソン記録会



### Ⅲ 基礎学力

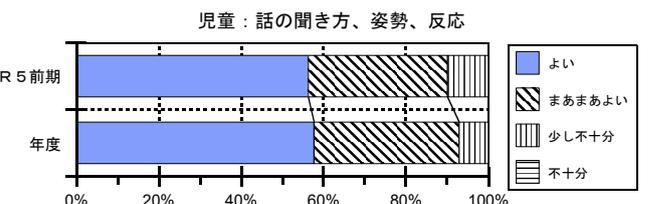
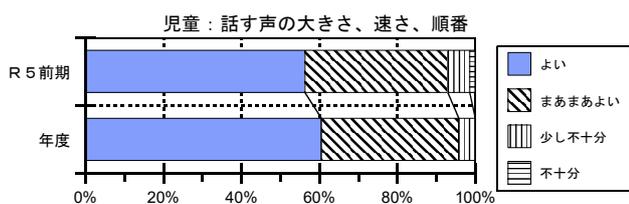
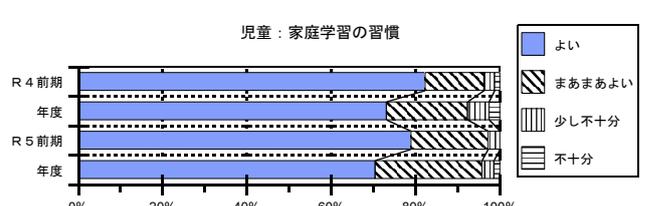
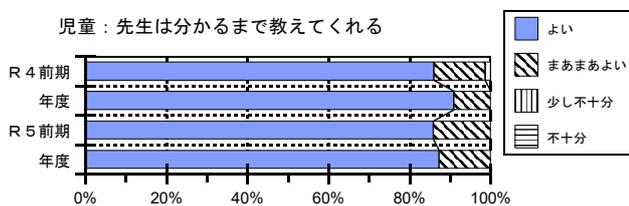
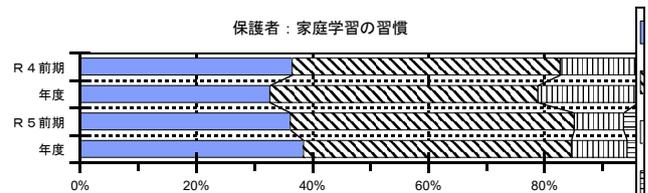
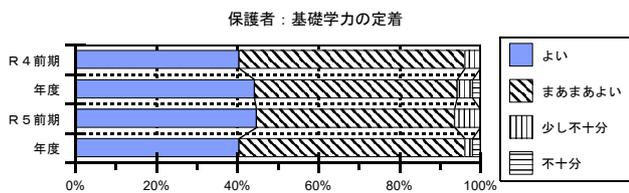
児童の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会コメント
意欲的に授業に臨み、基本的な学習習慣を身に付けながら、学力を向上させようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	授業のねらいがしっかり示されている点が良い。また、学年が進むに連れて態度面の成長が見られた。先生の目と心が行き届いており、少人数のよさが感じられた。
	年度	おおむね良好	良好	どの学級も授業中の姿勢がとてもよくなっている。児童アンケートの「先生は分かるまで教えてくれる」が100%で、児童と教師の信頼関係ができています。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期→年度】話す人の方に体を向け、目を見て反応しながら聴くことを粘り強く指導してきた結果、子どもたちの聞く姿勢がよくなってきている。タブレットは「まず使ってみる」「どんどん使う」段階から、「よりよく使う」段階に移行しつつあるが、ドリル学習やコミュニケーションツールとしてどんどん使いながら効果的な場面について研修を行っていききたい。「学級にあふれさせたい言葉や行動」を学級ごとに話し合い、「心をつなぐあったか言葉・行動」として掲示している。学期ごとに振り返りを行い意識を高めている。			
	【年度→次年度】聞き方に加え、学習の約束の継続指導が効果として現れてきている。今後も全校で取り組んでいきたい。ビッグボイスワークの取組はその期間は子どもたちも取り組むことができていた。年間の結果をを共有し、次年度の取組につなげていきたい。タブレットの使用について効果と課題が挙げられた。eライブラリが新しくなり、教師にとっても子どもにとっても使いやすく進化しているので、これからも使い方を充実させていきたい。タブレット使用時の約束についてはICT担当とも協力して、再度確認していききたい。心をつなぐあったか言葉・行動については、3学期末にもう一度振り返る時間を設けて、来年度につなげていく。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 学習への取組 (基本的な生活習慣) (主体的実践力)	⑩基本的学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の約束の継続指導</li> <li>ビッグボイスワークの実施</li> <li>タブレットを活用した朝学習、一人勉強の充実、県配信問題の実施</li> <li>心をつなぐあったか言葉・行動</li> <li>「かがやきタイム」の充実</li> </ul>	3	3
	⑪基礎学力の定着			
	⑫生き生きと表現する力の育成			
7 諸学力調査の状況 (課題解決力)	⑬諸検査の結果分析と共通理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題と質問紙票の分析、及び共通理解のための分析、会議の設定</li> <li>回復指導の時間やパワーアップ学習の設定</li> <li>授業改善につながる情報提供</li> </ul>	3	4
	⑭諸検査の分析を受けた対策・回復指導			

#### 【6に関するデータ】

- 基本的学習習慣の確立
- 基礎学力の定着
- 生き生きと伝え合う力の育成

教員評価 前期3. 2 → 年度3. 5  
 教員評価 前期3. 5 → 年度3. 4  
 教員評価 前期3. 4 → 年度3. 3



#### 【7に関するデータ】

- 諸検査の分析と共通理解
- 諸検査の分析を受けた対策・回復指導

教員評価 前期3. 7 → 年度3. 6  
 教員評価 前期3. 3 → 年度3. 5

#### IV ふるさとキャリア教育

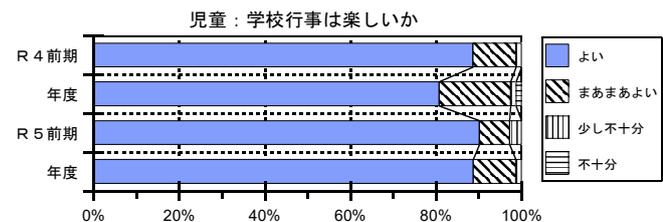
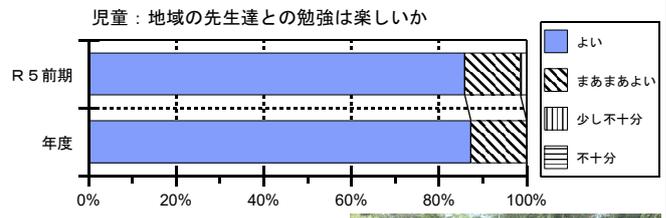
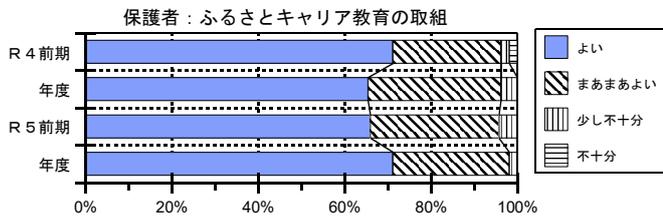
児童の状況	自己評価A	運営協議会評価	運営協議会コメント	
ふるさとへの愛着心を持ち、ふるさとに生きようとする気概を育てる。	前期	良好	良好	支援学校、保育園との交流や地域学習がよく進められている。地域とつながりながら子どもを育てている。
	年度	良好	良好	地域との交流、協力体制がよい。夢を育む教室の企画は極めて良好。新聞記事として取り上げられる回数が多く、地域住民としてとてもうれしく感じている。これからも地域を元気にする活動を続けてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<b>【前期→年度】</b> 5年生が比内支援学校の高学部と枝豆の植え付けと収穫体験で交流している。6年生は外部講師の指導を受けながら株式会社経営の学習を行っている。「KGP：小新田グレーププロジェクト」クラブは、昨年度からお世話になっている菅原良隆さんの農園での活動に加えて、菅原圭子さんが出荷しているブドウの袋に応援シールを貼る活動を始め、売り上げ向上に一役買っている。クラブ活動の枠を超えて興味のある5年生もシール貼りの活動に加わるなど、地域の人や物に興味関心が高まっている。今後も、地域の方々との関わりを増やすことで、地域に誇りをもつことができるよう仕掛けていきたい。			
	<b>【年度→次年度】</b> 4年生が比内支援学校の小学部と交流し、それぞれの校内ウォークラリーを楽しんだ。3年生や1年生は西館保育園との交流を通して、保小連携を密にしている。学期に1回実施している「夢を育む教室」は、フリーアナウンサーの長谷川真由美さんからの講話、HACHI100講座、サトシンさんの読み聞かせ、大館青鞥会の農家の方々とのパネルディスカッションを行い、表現力の向上や地域の魅力の再発見に貢献することができた。地域コーディネーターの協力を得て、書写指導の協力や読み聞かせなど、地域の方々との関わりながら学習を進めることができた。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 ふるさとに対する愛着心と誇りの醸成 (課題解決力) (発信力)	⑮たくましく豊かな心を育てる体験活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科、特活、総合的な学習の時間における体験活動の推進</li> <li>外部機関との連携</li> <li>地域の人材の職業観に触れる学習活動の推進</li> </ul>	4	4
	⑯夢を育む活動の推進			

#### 【8に関するデータ】

- たくましく豊かな心を育てる体験活動
- ふるさとキャリア教育・夢を育む活動について

**教員評価 前期 3.7 → 年度 3.8**  
**教員評価 前期 3.5 → 年度 3.8**



合唱指導(比内中 田中先生)



比内支援学校で枝豆収穫



5年 曲げわっぱ作り



西館ふるさとの日



**KGPクラブ**  
 とつと館で販売するぶどう  
 にラベルを貼りました。



東京藝大フィル コンサート



サトシンさんの読み聞かせ



ハチ100事業



読み聞かせ

## V 組織・運営

学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会コメント
特色ある開かれた学校づくりを計画的・組織的に行っている。	前期	良好	良好	学校の教育目標の実現に向かって一貫性をもった取組がなされている。
	年度	良好	良好	今年度の教育目標を、分かりやすいキーワードで繰り返し伝えることで共通理解が図られ、教師と児童が同じ方向を向いて進んでいる。職員の一体感が感じられる。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期→年度】⑩の項目は、今年度から実践課題と主な取組を見直した。コミュニティ・スクール元年となるので、運営協議会でのご意見を学校運営に生かしていくようにしたい。言葉によるコミュニケーション力の向上を目指す手立ての一つとして、昨年度から西館ミーティングを行っている。高学年がよい見本となることにより、態度面の成長も見られる。各種行事で、立候補制による実行委員会を組織して児童主体の活動を行っている。様々な機会、場面で活動に対する称賛をすることが、児童の自己肯定感を高める一助となっている。			
	【年度→次年度】運営協議会で協議された内容については、HPに学校評価書を掲載し公開しているが、どれくらいの保護者が目を通しているかは把握できていない。学校の経営方針を伝える主な場は、PTA総会、学校報となる。そこで、PTA総会が保護者と経営方針を共有できる場となるよう、協議内容を工夫したい。教育課程の編成や重点施策の具現化に向けた教育課程の実践については、子どもたちの変容から手応えを感じている。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
9 学校の明確な運営及び責任体制(主体的実践力)(発信力)	⑩コミュニティ・スクールの設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会による学校経営方針の承認</li> <li>学校評価等による経営改善</li> </ul>	3	4
10 教育課程の編成と実施(おおだて型学力)	⑪学校教育目標を実現するための特色ある教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>時数の確保と時間割の工夫</li> <li>児童の手による全校活動や縦割り活動の場の設定</li> <li>P D C Aに基づく行事の推進</li> </ul>	4	4
	⑫重点施策の具現に向けた教育課程の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション能力を意識した教育活動の展開</li> <li>児童の実態を深く掘り下げるワークショップの実施(2月)</li> </ul>		

【9⑩に関するデータ】コミュニティ・スクールの設置

教員評価 前期 3. 4 → 年度 3. 5

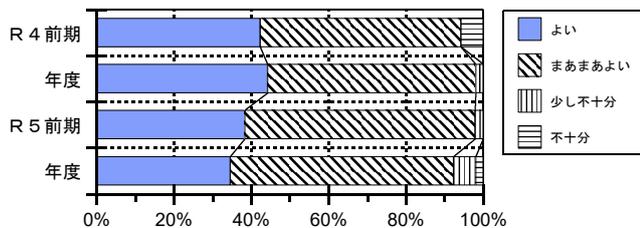
【10⑪に関するデータ】特色ある教育課程の編成

教員評価 前期 3. 7 → 年度 3. 6

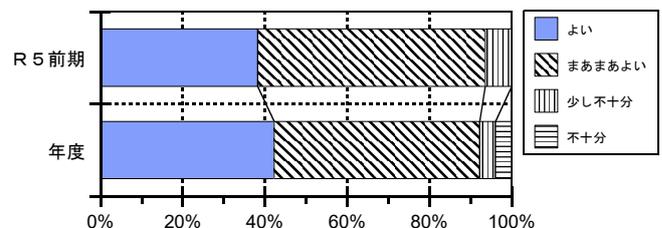
【10⑫に関するデータ】重点施策の具現に向けた教育課程の実践

教員評価 前期 3. 5 → 年度 3. 5

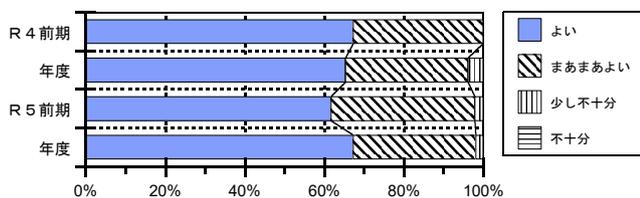
保護者：学校教育目標、経営方針の伝え方



保護者：学校評価による経営改善



保護者：各行事は効果的に実施されているか



西館ふるさとの日実行委員

達子森登山の際のミッションの企画

当日の司会、進行

高学年が片付けをしている間の、低学年のゲームの企画と当日の進行

### 2023西館っ子 合い言葉

言葉と心を込めた振る舞いでつなげる、  
あったかコミュニケーション  
「いいね！西館っ子」

### 4つのコミュカ

- 1 温かい人間関係を築く力
- 2 自分らしさを発揮しながら、他者と協力して学ぶ力
- 3 相手の気持ちや意図を理解し、共に成長しようとする力
- 4 自分の思いや感情を、言語・非言語等を活用して伝え合う力

- ・授業での反応言葉
  - ・かがやきタイム
  - ・語彙を増やす
  - ・ペア学習
  - ・西館ミーティング
  - ・校外学習アンケート
  - ・「心つながり あったか言葉☆行動  
～花咲け 西館っ子～」を各学級に掲示 等
- ※できていること認め、次に向かう意欲を高める。

## VI 保護者・地域との連携

学校の状況	自己評価A	運営協議会評価	運営協議会コメント	
学校の取組を保護者、地域に分かりやすく伝え、地域の教育力を有効に生かしている。	前期	良好	良好	学校報を楽しみにしている方も多いようなので、全戸配布を続けてほしい。普段の授業のサポートにも地域コーディネーターをもっと活用するとよい。
	年度	良好	良好	保護者は学校を信頼し、学校の様々な行事を楽しみにしているようだ。学校報の全戸配布を継続するとともに、比内地区の小学校にも送り、情報共有をするとよい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期→年度】新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたことにより、地域との関わりがコロナ禍前の状況に戻りつつある。学校農園の畝立て、夢を育む教室、読み聞かせ、書写指導など、地域コーディネーターに連絡を取っていただき、地域の人材を活用した活動ができている。来年度の創立150周年記念事業に向けての実行委員会を2回開催し、大まかな計画ができた。地域を元気にする事業になるように進めていきたい。			
	【年度→次年度】学校とPTA、後援会、保護者、地域との連携のアンケート項目を、学校とPTAとの連携、学校と後援会との連携、学校と地域との連携の三つに分けることによって、どの連携が弱いのか明らかにしたい。また、「V組織・運営」と同様に、保護者アンケートでは、「よい」、「まあまあよい」の肯定的な評価が高い割合となっているが、「よい」の割合を増やせるように、連携している事柄や要望への対応について、具体的に伝えていきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
11 地域の教育力の活用 (組織力)	㊹地域・異校種との双方向の連携・協力体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校支援活動事業の推進</li> <li>学校後援会との連携</li> <li>保・小・中・支援学校との連携</li> </ul>	4	4
12 情報の受発信 (情報把握力・発信力)	㊺広報活動の充実と学校開放の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校報・ホームページ等による情報の受発信</li> </ul>	4	4

### 【11・12に関するデータ】

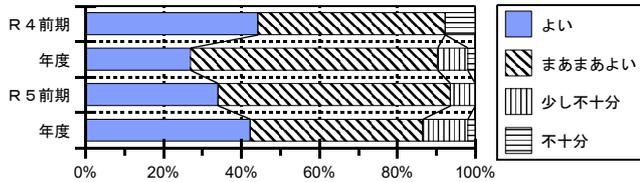
○地域の教育力の活用

○学校報、ホームページ等による情報の受発信

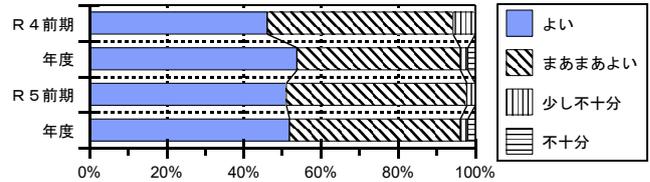
教員評価 前期 3.8 → 年度 3.6

教員評価 前期 3.8 → 年度 3.6

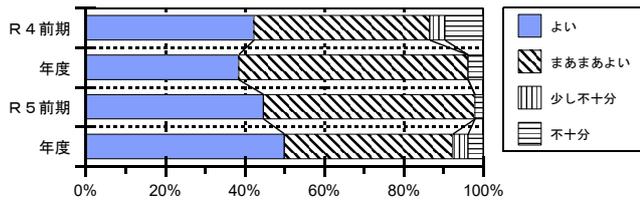
保護者：学校とPTA、後援会、保護者、地域との連携



保護者：学校の取組や子どもたちの様子を分かりやすく伝える



保護者：保護者からの相談や要望などへの適切な対応



学校報の配付先

- とっと工房
- 西館児童館
- 西館保育園
- 西館郵便局
- 比内支援学校
- 比内中学校
- 比内公民館

### ☆避難訓練について（3回実施）

- |          |           |       |
|----------|-----------|-------|
| 1回目（地震）  | 5月25日（木）  | 3校時   |
| 2回目（不審者） | 7月19日（水）  | 2校時   |
| 3回目（火災）  | 11月29日（水） | 3・4校時 |

外部機関との連携なし  
大館警察署生活安全課  
大館消防署比内分署



### ↑避難訓練

- ・3回目は、防火扉、シャッターを閉めて訓練を行った。また、煙体験、消火器の操作についても学んだ。

←大館市防犯協会西館支部による下校時の見守り活動  
9月4日（月）から8日（金）まで実施

## Ⅶ 教師の研修

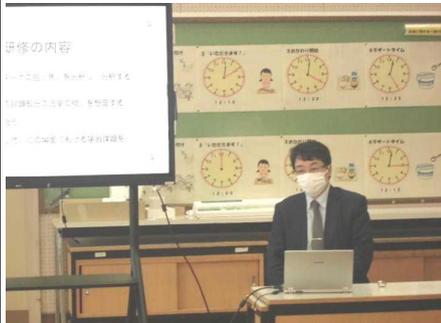
学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会コメント
学校教育のレベルアップのために教職員が目標をもって意欲的に研修を行っている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	育てたい子どもの姿を全職員が共通理解しながら取り組まれている。高い意識をもって更に研修を深めていただきたい。
	年度	おおむね良好	良好	授業中の児童と教師の距離感がよい。授業に向かう児童の真剣さ、板書、発問等から教師の努力が伝わってきた。また、少人数のよさも感じられた。課題として挙げられた「考えの少なさ」への対応について研修を深めてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期→年度】4月に「学びのオリエンテーション」を開き、子どもと職員が学習への向かい方や、今年度の学校教育目標の副題「～言葉と心を込めた振る舞いでつなげる、あったかコミュニケーション」についての共通理解を図った。また、折に触れて「あったかコミュニケーション」を意識させる取組を行っている。ICT活用指導力については、大館市教職員夏季研修会に参加した職員からの伝達や、日々の活用により研鑽に励んでいる。</p> <p>【年度→次年度】今年度は、研究教科の国語の他にも、体育や理科、総合的な学習の時間など、様々な教科を研修する機会をもつことができた。また、国語の教材分析の仕方について全員で研修し、3学期の授業において実践することとした。児童が分かる授業作りについて、前向きに取り組む研鑽に励んでいる。学びを支える土台として位置付け、教育活動全体を通して取り組んできた共感的な学級づくりにより、児童が安心して自分の考えを発表できるようになってきている。共感的な話し方、聞き方に対する意識と態度が更に向上するように、今後も「あったかコミュニケーション」を合い言葉に指導を継続していく。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
13 研修の実施 (組織力)	②計画的、組織的な研修の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間研修計画の立案と校内外の研修</li> <li>情報の共有化</li> </ul>	3	3
14 授業力の向上 (主体的実践力)	③計画的な研究授業の実施と成果・課題の把握と改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前研、事後研の計画的な運営</li> <li>授業改善に向けた施策 (共感的な話し方・聞き方の指導、かがやきタイム、振り返りの視点等)</li> </ul>	3	3

【13に関するデータ】 教員評価3.4 → 年度3.2

【14に関するデータ】 教員評価3.4 → 年度3.4

### 【1月18日 国語の教材分析の研修会】



### 【10月26日 国語指定訪問】



2年生 研究授業



5年生 研究授業



授業研究会の一場面

### 【成果と課題】

- 学習の際に「用語」と「話型」を意識して活用することで、子どもたちが使える言葉や反応が増えてきている。よい実践を全体で共有し、取組を進めていきたい。
- △授業研究会や日々の授業で明らかになった成果と課題を全体で共有し、課題改善に向けた具体的な取組を共通実践していけるようにしていきたい。子どもたちに確かな学びの力を身に付けさせるためのチームとして、全員で協力しながら進めていけるような研修の在り方について考えていく必要がある。